

檀王法輪寺は三条橋東詰にあり、浄土宗にして本尊阿弥陀仏は恵心の作なり。古は悟真寺と号して、良忠上人の弟子道光法師建立す。応仁の乱後荒廢に及ぶ。慶長年中袋中上人再建ありて梅檀王院と号す。〔今略して檀王と呼ぶ、袋中上人退院の後、五条橋東に隱居し袋中庵と称す、今尼住持す〕主夜神祠は開基袋中上人の勸請なり。縁起に曰、慶長八年三月十五日、袋中上人別行に入て念仏し給ふに、忽然として朱衣に青袍を着して光明の中に顕れ、上人に告て曰、われは華嚴經に説給ひし婆珊婆演底主夜神なり、専修念仏の行者を擁護すべしと、則秘符を授給ふ、夫より応驗新にして常に詣人多し。〔慶長以来は当寺宝蔵にあり、近年今の堂に鎮座す、鳥居は石柱にして額は有栖川職仁親王の筆なり〕鎮守は加茂太神宮を祭る。〔当寺建立より以前の勸請なり、古鴨川洪水の時糺の社此所に流れ来る、此ゆへに鎮座し給ふとぞ〕龍王祠〔むかし鴨川の東の岸に大きな淵あり、悪蛇すんで人を害す、一とせ早魃の年これを斬て其靈を祭るとぞ〕袖留地蔵〔由来不詳〕三株松〔袋中上人熊野三所権現を勸請すとなり〕